【昭和11年創刊】昭和20年11月13日第3種郵便物認可 ©毎日新聞社2024（日刊）

2024（令和6年）5/3 金曜日

毎日小学生新聞

発行所　毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 電話03-3212-0321
定価　1か月1750円（本体1620円、消費税130円）・1部70円

きょうの なるほど～
関ケ原の戦いがあった「関ケ原」。今の何県にあるでしょうか。
くわしくは 6面

低学年から 3面 6さいからのニュース ©あきやまただし
4面 学びや　公民
8面 もちもち♥ぱんだ

双子のパンダ♥独り立ち

上野動物園で大きく成長

東京・上野動物園の双子のジャイアントパンダ「シャオシャオ」（オス）と「レイレイ」（メス）が、4月中旬に「独り立ち」しました。わずか100グラム程度で生まれた2頭も、いまでは80キログラム近くにまで成長しました。現在、別々のエリアで公開されているシャオシャオとレイレイの様子を動物園に聞いてみました。

独り立ちする前の最後の日を2頭仲良く過ごすシャオシャオ（左）とレイレイ＝いずれも東京動物園協会提供

目印であった緑の線が薄れつつあるシャオシャオ

変わらぬ食欲を見せ、マイペースなレイレイ

シャオシャオとレイレイは、今年6月に3歳を迎える、上野動物園生まれの双子パンダです。昨年3月に母親の「シンシン」のもとを離れて、2頭同じ部屋で仲良く暮らしてきました。

ところが、大きく成長するにつれ、じゃれ合いが激しくなってきたといいます。「一方が、（じゃれ合いを）嫌がるようになってきました。このまま一緒に暮らし続けると、けがをする恐れがあるため、別々に飼育することになりました」と上野動物園の冨田恭正副園長は説明します。

もともとパンダは、自然の中では単独で生活する動物で、1歳半～2歳ごろに母親から離れて独り立ちします。たくさん飼育している中国では、双子は2～3歳で分けることが多いそうです。「シャオシャオとレイレイも3歳までは一緒にいられると考えていましたが、結果的にけががない状態で分けることができたので、独り立ちの時期としてはちょうどよかったと判断しています」と冨田さんは胸をなでおろします。

甘えん坊のシャオシャオに、マイペースのレイレイ。いつも一緒だった双子が、別々に暮らすのは寂しくないのでしょうか。「シャオシャオは、部屋が変わったので、これまでより竹をえり好みするなど少し落ち着かない様子です。一方、部屋が変わっていないレイレイは、落ち着いた様子です。特にシャオシャオと別れたことを気にしている様子はありません」。冨田さんは2頭について、そう説明します。今後、双子が顔を合わせる機会があるのか気になるところですが、残念ながら、「今のところ、2頭が出会うような管理は考えていません」とのことです。

目印の線もあとわずか

シャオシャオといえば、安全な塗料で背中に緑の線が描かれ、レイレイと区別されていました。シャオシャオの目印として、グッズにも入っていたあの緑の線は今後どうなってしまうのでしょうか。冨田さんによると、区別する必要がなくなるため、新たに色をつけることはしないそうです。「自然と薄れてなくなっていく」とのことで、今のものが消えたら見られなくなります。

現在は、ゴールデンウイーク（GW）まっただ中です。期間中、動物園を訪れるかもしれない子どもたちにメッセージをもらいました。「動物園には、たくさんの動物たちがいますので、どれか1種類でもじっくり観察してみてください」

【長尾真希子】

毎日小学生新聞編集部
お手紙 〒100-8051（住所不要）
メール maishou@mainichi.co.jp
配達お問い合わせ／購読お申し込み 0120-468-012
保護者にお知らせ 毎小メール 登録はこちら